

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0005

住 所 川崎市川崎区東田町8 パレール三井ビル17階

氏 名 株式会社 デイ・シイ

代表取締役 上野山 佳志 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社 デイ・シイ		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浅野町1番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	21	窯業・土石製品製造業
主たる事業 の内容	セメント、固化材の製造販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		51,999 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		321,176 t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ～ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	( 2021 年度)	( 2022 年度)	( 2023 年度)	( 2024 年度)	
排出量 ( t-CO2)	(実) 521,424 (調) 484,910	(実) 491,949 (調) 457,818	(実) 496,623 (調) 453,336	(実) 464,973 (調) 418,910	(実) 519,338 (調) 482,806
削減率		(実) 5.7 % (調) 5.6 %	(実) 4.8 % (調) 6.5 %	(実) 10.8 % (調) 13.6 %	(実) 0.4 % (調) 0.4 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

	生産数量				原単位等の単位	t-CO2/t
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度		
	( 2021 年度)	( 2022 年度)	( 2023 年度)	( 2024 年度)		目標とした値
排出量原単位等の値	0.4733	0.4919	0.5272	0.5365		0.4714
活動量の値	1,101,532	999,926	941,976	866,642		-
排出量原単位等の削減		-3.9 %	-11.4 %	-13.4 %		0.4 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	<p>【数量】 クリンカ生産数量減により温室効果ガスは減少した。</p> <p>【原単位】 クリンカ生産数量減、高炉セメント出荷数量減、買電電力CO2排出係数増加により増加した。</p>	
第2年度	<p>【数量】 クリンカ生産数量減により基準年度と比べて温室効果ガス量は減少した。</p> <p>【原単位】 温室効果ガス排出量は減ったが、クリンカ生産数量減により基準年度と比べて増加した。</p>	
第3年度	<p>【数量】 クリンカ生産数量減により基準年度と比べて温室効果ガス量は減少した。</p> <p>【原単位】 温室効果ガス排出量は減ったが、クリンカ生産数量減により基準年度と比べて増加した。</p>	
<p>計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>		<p>【数量】 基準年度と比べ生産数量が大きく減少し、温室効果ガス排出量も大きく減少した。</p> <p>【原単位】 エネルギー削減、化石燃料代替向上に務めた が、生産減少による原単位上昇が上回った。</p>
<p>上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)</p>		<p>主燃料である石炭の使用割合を減らし、温室効果ガス排出原単位の低い燃料の使用を増加させていく。老朽化設備更新や高効率設備の導入を行い、電力原単位の削減に務める。</p>

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネ活動の推進 特に生産量の増減に合わせた運転の高効率化、無駄を省くことを、更に進めていく。</li> <li>○産業廃棄物の積極的有効利用による石炭使用量削減</li> <li>○昼休み中の消灯, パソコンモニタの電源OFFの推進</li> <li>○高炉セメントの積極営業活動</li> </ul>
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネ活動の推進 各工程に担当者を置き、省エネマスタープランに基づく活動を行った。 特に生産量の増減に合わせた運転の高効率化、無駄を省くことを進めていった。</li> <li>○産業廃棄物の積極的有効利用による石炭使用量削減 バイオマス汚泥、廃プラスチック使用量増により、石炭の使用量削減活動を継続した。</li> <li>○昼休み中の消灯, パソコンモニタの電源OFFの推進 クールビズの実施、昼休み中の消灯等を継続して実施した。</li> <li>○高炉セメントの積極営業活動 積極的な営業活動を行ったが、需要低下により、高炉セメントの比率は減少した。</li> </ul>
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネ活動の推進 各工程に担当者を置き、省エネマスタープランに基づく活動を行った。 特にセメント出荷量の低下によるセメント焼成炉抑制運転に合わせた運転の最適化を進めていったが、共通工程等の電力、燃料によりエネルギー原単位は悪化した。</li> <li>○産業廃棄物の積極的有効利用による石炭使用量削減 前年度に引き続き、バイオマス汚泥、廃プラスチック使用量増により、石炭の使用量削減活動を継続した。</li> <li>○昼休み中の消灯, パソコンモニタの電源OFFの推進 クールビズの実施、昼休み中の消灯等を継続して実施した。</li> <li>○高炉セメントの積極営業活動 積極的な営業活動を行ったが、事業見直しおよび需要低下により、高炉セメントの比率は減少した。</li> </ul>
<p>第3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○省エネ活動の推進 各工程に担当者を置き、省エネマスタープランに基づく活動を行った。 特にセメント出荷量の低下によるセメント焼成炉抑制運転に合わせた運転の最適化を進めていったが、共通工程等の電力、燃料によりエネルギー原単位は悪化した。</li> <li>○産業廃棄物の積極的有効利用による石炭使用量削減 前年度に引き続き、バイオマス汚泥、廃プラスチック使用量増により、石炭の使用量削減活動を継続した。</li> <li>○昼休み中の消灯, パソコンモニタの電源OFFの推進 クールビズの実施、昼休み中の消灯等を継続して実施した。</li> <li>○高炉セメントの積極営業活動 積極的な営業活動を行ったが、事業見直しおよび需要低下により、高炉セメントの比率は減少した。</li> </ul>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>コスト低減マスタープラン、環境整備マスタープランに則り、エネルギー削減、化石燃料代替活動を行ったが、セメント需要低迷による生産数量の減少が大きく、エネルギー原単位は悪化している。引き続きエネルギー、温室効果ガスの低減に全社をあげて務めていく。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況  
 (追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ( )		
その他 ( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
①バイオマス	廃置 置場 42㎡ 処理実績なし	2009年度導入
②バイオマス	下水汚泥 有機汚泥 処理実績 約16,000t/年	2016年度導入
③太陽光 発電	場所:技術部屋上 出力:23.52kW 発電電力実績:16,772kWh/年 (外部供給)	2012年度導入
④太陽光 発電	場所:工場屋上 出力:416.5kW 発電電力実績:340,389kWh/年 (外部供給)	2015年度導入

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況  
 (追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ( )	
EV、PHV、FCV	×	その他 ( )	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎パイロットブランド'09に選定</li> <li>製品名：高炉セメントB種</li> <li>CO2削減量：ライフサイクルCO2を約40%削減</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎パイロットブランドの高炉セメントB種を 85,288 t生産し、CO2削減に貢献した。</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎パイロットブランドの高炉セメントB種を 89,743 t生産し、CO2削減に貢献した。</li> </ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎パイロットブランドの高炉セメントB種を 76,557 t生産し、CO2削減に貢献した。</li> </ul>

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎臨海部の企業が中心となって立ち上げた「NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター」を中心に「川崎温暖化対策推進会議(CCエコ会議)」及び「低CO2川崎ブランド等推進協議会」などに参画する。</li> <li>・グリーン購入の推進を行なう。</li> <li>・運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施の要請する。</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎臨海部の企業が中心となって立ち上げた「NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター」を中心に「川崎温暖化対策推進会議(CCエコ会議)」及び「低CO2川崎ブランド等推進協議会」などに参画した。</li> <li>・グリーン購入の推進を行った。</li> <li>・運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施の要請した。</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎臨海部の企業が中心となって立ち上げた「NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター」を中心に「川崎温暖化対策推進会議(CCエコ会議)」及び「低CO2川崎ブランド等推進協議会」などに参画した。</li> <li>・グリーン購入の推進を行った。</li> <li>・運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施の要請した。</li> <li>・太平洋セメント株式会社ニュースリリースの「CO2回収型セメント焼成設備」の検討に着手した。(追加実施)</li> </ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎臨海部の企業が中心となって立ち上げた「NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター」を中心に「川崎温暖化対策推進会議(CCエコ会議)」及び「低CO2川崎ブランド等推進協議会」などに参画した。</li> <li>・グリーン購入の推進を行った。</li> <li>・運送委託業者に対する低燃費車使用やエコドライブの実施を要請した。</li> <li>・太平洋セメント株式会社ニュースリリースの「CO2回収型セメント焼成設備」の検討を継続している。</li> </ul>

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	168,152 t-CO <sub>2</sub>	156,034 t-CO <sub>2</sub>	150,164 t-CO <sub>2</sub>	143,797 t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー 使用量	60,995 KL	56,700 KL	54,301 KL	51,999 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
川崎工場	神奈川県川崎市川崎区浅野町1番1号	168,134	156,018	150,148	143,783

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度